

知多地域で県政懇談会



議会報告を行うしもおく議員

7月29日、知多地域で55人が参加し、県政懇談会が行われました。

しもおく議員が参加し、中部国際空港2本目滑走路整備、国際展示場と合わせてカジノ誘致、武豊火力の問題について、議会の報告(県政ニュースNo.87.96.98をご参照ください)をしました。

地元の市町の議員からも、それぞれ地域の問題や運動についての報告がされました。

大企業のためのインフラ整備になっていること、河川改修や堤防整備に県はお金を使うべき

だということ、農業や漁業への支援、コウナゴやシャコエビが獲れない海の環境がおかしいこと、県営住宅のボロボロ問題など、行政が住民の方を向いていない実態が話されました。

知多市では2年前から「まちづくりカフェ」を行う中で、要求を出しあい運動してコミュニティバスの料金の200円から100円への引き下げを実現したことなども報告されました。

参加者の方からも要望や感想が出されました。

コミュニティバスについては「県が財政支援してくれたらもっと使いやすくなる。しもおく県議の質問に励まされる」という声が出されました。障害者の問題では、親が亡くなった後のフォローや、特別支援学校のマンモス化を県としてきちんと整備してほしいと要望が出されました。また、国保の県単位化も負担が大幅に増す不安があり、重要な問題です。

これからも住民のみなさんと連携して県議会でもしっかり取り上げていきたいと思います。

「健康と環境守れ！ 愛知の住民いっせい行動」

7月26日、第41回目となるいっせい行動に共産党県議団が同席しました。

公害・環境団体が1977年以来、毎年愛知県知事と部局に要望書を提出し、それに対する回答をもとに直接話し合われる貴重な場です。

知事との話し合いでは、リニア中央新幹線の発生土処分と工事被害、西尾市の産廃処理場計画への対応、東海道新幹線の騒音、設楽ダムからの撤退、河川の環境基準の水域類型引き上げなど6項目について、知事の考えを質しました。

新幹線の騒音対策が、環境基準が定められてから40年も経つのに未だに改善されていないことや、リニア中央新幹線の工事騒音に対しては「引き続きJRに対して働きかける」と答えるのみです。設楽ダムについても、「フルプランで設楽ダムは必要のない事業」という訴えにも耳を貸さず、知事は「様々な意見を積み重ね決まったこと」と、推進の立場をさらに明らかにしました。

部局との話し合いでは、道路や新幹線の騒音被害、中部国際空港の二本目滑走路による環境破壊、河川の汚染対策、など、住環境改善に対しては前進が望めるような回答はありません。

設楽ダムは振興に関する問題だけではなく、環境破壊に大きな影響があることから、「環境部」からもきちんと回答されるよう求めました。

リニア中央新幹線の工事による残土受入場所の情報について「JR東海には提供している」ものの住民には全く情報提供がされていません。住民への情報公開や説明がされないまま進められている実態が明らかになりました。共産党県議団は住民の声に耳を傾け、生活を守る県政をつくっていききたいと思います。



県当局との話し合いに同席するわしの議員(左)しもおく議員(右)